

地域医療構想調整会議の議事概要 報告書

広島市連合地区地域保健対策協議会
海田地域保健対策協議会
芸北地域保健対策協議会

会議の実施日時	令和8年8月18日 19:10~20:30 令和8年度 第1回 広島圏域地域医療構想調整会議及び広島圏域地域医療構想調整会議南部・北部病院部会合同会議
協議事項：病床数適正化緊急支援事業の活用による病床の削減について	
○ 事務局より、病床数適正化緊急支援事業の活用による19医療機関の病床削減について説明。 《意見・質問なし》 【協議結果】 すべての医療機関が国の給付金を活用して病床削減を行うことについて、広島圏域として同意することとした。	
報告事項1：広島医療圏北部地域における病院連携について	
○ 事務局より、広島医療圏北部地域における病院連携について説明。 ○ 吉田総合病院より、病床削減の概要について説明。 《意見・質問なし》	
報告事項2：かかりつけ医機能報告制度に関する報告について	
○ 広島県医療政策課より、かかりつけ医機能報告制度に関する報告について説明。 《意見・質問なし》	
報告事項3：次期外来医療計画（第8次後期）の策定に向けた方針について	
○ 広島県医療政策課より、次期外来医療計画（第8次後期）の策定に向けた方針について説明。 《意見・質問なし》	
報告事項4：新たな地域医療構想について	
○ 事務局より、新たな地域医療構想の策定について説明。 《意見・質問なし》	
共有事項：「外科医療確保特別加算」算定に向けての地域の医療機関との協議について	
○ 県立広島病院、広島市民病院、安佐市民病院を代表して、県立広島病院より、「外科医療確保特別加算」算定に向けての地域の医療機関との協議について説明。 《意見・質問》 ○ 委員 外科医への加算の分配方法は全国的に不統一であるが、3病院ではどのようにするのか。 ○ 代表して広島市民病院の回答 県立広島病院では手当支給を開始しており、手術の難易度や件数、責任の重さに応じた手当の支給となることを伺っている。 広島市民病院及び安佐市民病院は、市立病院機構において協議中であり、制度創設の趣旨を踏まえ、外科医療を担う医師の確保・処遇改善を通じて、地域に必要な外科医療を持続可能にするための運用について協議中である。 手当については、チーム医療であることを踏まえ、外科医に一律に支給する手当と、責任の重さに応	

じて支給する手当と差を設ける２段階で新設する方向で検討が進められている。

○ 委員

問題は実効性であり、３病院から地域の病院に対し、毎年、紹介理由を報告するなどの、実効性の担保は考えているか。

○ 県立広島病院

今までも手術患者の逆紹介を行い、当院では半年に１回フォローアップしている。

○ 広島市民病院

加算による改善や成果を出してほしいという要望であると思うが、がん地域連携パスの運用の変化、加算に関する逆紹介件数等が指標となると思う。

その他

○ 地域医療構想アドバイザー

- ・ 外科医への加算によって、医療機関で報酬の違いがあることになれば、若い外科医の病院選択に影響するのではないかと心配している。
- ・ 地域医療構想について、備北圏域の構想区域は、EMITAS データによる患者の流出・流入などを踏まえ、どの区域と一緒にすべきか、独立した区域で医療が行えるのか議論したいと考えている。
- ・ 地域医療支援病院はかかりつけ医と連携して地域医療を守ってきたため、地域医療支援病院や重点支援病院を「かかりつけ医機能１」とするのはいかがか。医療資源の少ない市町単位では、医療提供体制がどのように担保されるのかについて懸念が生じるのではないかと危惧している。
- ・ 外来医療計画で医師過多区域の話があったが、医療資源が少ない北部では、広島圏域全体で話をされると難しいことがある。吉田総合病院の病床削減は、隣接する三次市にも関係し、病床機能報告について一緒に話し合いができたかと思っている。
- ・ 広島県では約 12,000 床の病床数に対し、今回は 399 床の削減申請があり、3.3%とかなりの削減である。調整会議は、高度急性期から在宅までの繋がりの中での地域医療をいかに上手く接続していくか、バランスをとっていくか検討することが大原則だったと思う。その中で、高度急性期から在宅の間にある中小病院の経営がかなり逼迫し、人材確保も困難であり、病床を手放すということは、病院管理者にとってつらいことである。ただ、余剰病床があったからこそコロナにもある程度対応できたと実感しており、休床は全部返還したらいい、埋まらない病床はどんどん返還したらいいという考え方だけでは、解決できない点があると思う。病院経営は苦しい状況であるが、必要な病床は将来に向けて守ってほしい。

○ 北部病院部会部会長

- ・ 399 床の病床削減申請がある状況下で、各医療機関が単独で医療を担うのは困難であり、今後は、各医療機関の地域における役割や、限られた医療機関を地域全体で有効活用することがより重要であると強く感じた。
- ・ 調整会議は単なる病床調整の場ではなく、将来にわたり地域住民が安心して必要な医療を受けられる医療提供体制を皆で考えていくことが非常に重要であると思った。